

畑地性カラー球根に適する温湯消毒処理法

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

花き—カラー—病害虫防除

2 担当者

大竹真紀・星佳織・堀越紀夫

3 要旨

畑地性カラーの球根の薬剤防除は、軟腐病等による茎葉の腐敗症状を十分に抑制できていない。「クリスタルブラッシュ」と「ゴールドクラウン」は、定植前の球根を50℃の温湯に40分浸漬した後30分流水中で冷却する温湯消毒処理を行うことで茎葉腐敗の発症が抑えられた。

- (1) 「クリスタルブラッシュ」を用いた5月定植の夏切り栽培において、定植前に50℃の温湯に40分以上浸漬すると、生育や開花が遅れ、採花本数は増えたが短茎で奇形花も多くなった(表1)。
- (2) 温湯に40分浸漬し、直ちに水道水で30分冷却すると生育や開花がやや遅れたものの薬剤処理と同等の切り花が得られた(表1)。「ゴールドクラウン」でも採花本数や切り花品質に有意差がなかった(データ省略)。
- (3) 温湯浸漬処理では採花期までの地際部の茎葉腐敗の発症が抑えられた(図1)。

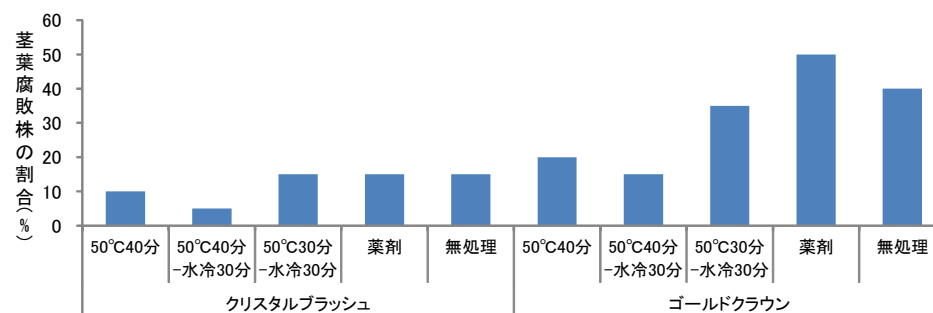
表1 球根の定植前処理の違いと採花状況

試験年次	処理	処理前球根重(g/球)	開花前 ¹⁾ の草丈(cm)	採花本数(本/球)	切り花長(cm)	奇形花率(%)	平均開花日
H27	50℃60分	89.2	23 b	8.4 ab	33 c	37	7月25日
	50℃60分-水冷30分	90.7	19 b	9.5 a	31 c	37	7月27日
	50℃40分	86.5 n.s.	34 a	9.6 a	40 b	33	7月26日
	薬剤(スターナ水和剤)	87.6	43 a	4.4 c	52 a	23	7月21日
	無処理	88.3	44 a	5.6 bc	53 a	13	7月23日
H28	50℃40分	54.6	38 ab	4.3 a	45	35	8月5日
	50℃40分-水冷30分	59.8	28 b	2.0 ab	48	23	7月31日
	50℃30分-水冷30分	59.2 n.s.	43 a	2.7 ab	47 n.s.	32	7月24日
	薬剤(スターナ水和剤)	59.5	42 a	1.5 b	51	23	7月24日
	無処理	59.5	47 a	1.8 b	49	22	7月27日

品種:クリスタルブラッシュ 栽培地:H27猪苗代町農業活性化センター、H28会津地域研究所。定植:5月17、18日。

Tukeyの多重比較により、異符号間に5%水準で有意差あり。

1) 開花前:7月7日調査。



* 茎葉腐敗株の割合:7月下旬から8月までに茎葉に腐敗症状が見られた株の割合

図1 茎葉の腐敗症状の発生割合(H28年)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27年度～28年度
- (2) 研究課題名 会津地域の特色を活かした野菜・花きの高品質安定生産技術の確立
(畑地性カラーの多収栽培技術の確立)
- (3) 参考となる成果の区分 (終了参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成25年度農業の新しい技術「湿地性カラーでの球根温湯消毒を導入した改植法」熊本県農林水産部